

間違いだらけのペットの健康常識

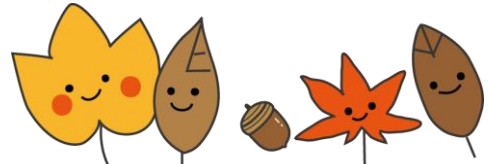


❁冬に向けて気をつけたい病気

関節炎（神経痛）など

→ワンちゃんに多いです

気温の低下や気圧の変化により血行が悪くなり痛みを感じやすくなります
寝起き時に痛みを感じ、体が温まってくると痛みが緩和することが多いようです
グルコサミンやコンドロイチン硫酸を含むサプリメントを利用することもあります



膀胱炎（尿石症）など

→ネコちゃんに多いです

寒くなると飲水量が減る、トイレが寒い場所（廊下や洗面所）にあるので行きたくなくて排尿を我慢してしまう、などの原因が考えられます。

尿中に結晶や結石ができたり、細菌感染が起こりやすくなります
排尿しやすい環境（トイレの場所を暖かくする）、FOOD をぬるま湯でふやかして水分補給してみるなどの対策をしてみましょう

鼻や気管支の病気

→空気が乾燥することによりウイルス感染しやすくなります

湯気がたちこめているお風呂場に連れていったり、加湿器をつけるのもおすすめです

❁飼い主様の間違った認識（常識）

水道水よりミネラルウォーターの方が健康に良さそう！？

→含有ミネラルが尿石症の原料になってしまいます

太ったワンちゃんネコちゃんは可愛い！？

→動物病院ではボディコンディションスコアを参考に肥満度を判定しています

通常、適正体重の15%を超えると減量の必要があるとされています

太ることによって、心臓、呼吸器、関節、骨、糖尿病などいろいろな病気の引き金になるおそれがあります

月に一度、体重測定だけのご来院も大歓迎ですし、獣医師が処方する減量用のFOOD もありますので、お気軽に動物病院にお越しください

果物がおいしい季節。ブドウを欲しがるのであげていい！？

→ブドウを大量に食べた犬が急性腎不全（ブドウ中毒）で死亡する報告があります

Ex.体重2.5kg のマルチーズが種なし小ブドウ約70 グラムを食べた5 時間後から嘔吐と乏尿
集中治療を行うもブドウ摂取4 日後に死亡【日獣会誌 63, 875 ~ 877 (2010)】

→ぶどうの他にも食べさせてはいけないものがたくさんあります

いつも同じFOOD はかわいそう！？

→FOODを頻繁に変えてしまうより、栄養バランスのとれたFOODを一貫して与えた方が、食事アレルギーの発生や下痢・嘔吐など消化器症状の出現を防いでくれます

味を感じる「味蕾（舌のイボイボ）」の数が、ヒトは約10,000個あるのですが犬は約2,000個、猫は約500個しかありませんので動物たちは味のスキ・キライより“ニオイ”や“食感（舌触りや温度）”に好みがありそうです



人間用の歯磨き粉（キシリトール入り）を使ってもいいかしら！？

→甘味料として使われているキシリトールですが、犬ではキシリトールを摂取するとインスリンが激しく分泌されることがわかっています（猫ではわかりません）インスリンが大量に分泌されることにより低血糖を引き起こす恐れがありますのでワンちゃんの歯磨きには専用の歯磨き粉をご使用ください

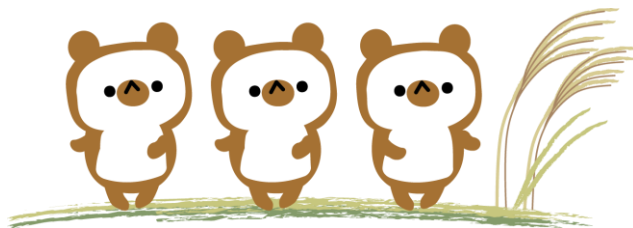
耳が痒そうだから綿棒でキレイに！？

→ヒトの耳道は水平なのですが、犬の耳には垂直耳道と水平耳道があります耳道には「自浄作用」があり本来であればキレイに保てているはずなので、汚れがあるのは「病院での処置が必要である」というサインです綿棒を使用すると耳を傷つける可能性や、せっかく外に出てきた汚れを押しこんで、かえって状況を悪化させてしまう可能性がありますので、綿棒の使用はやめましょう

人間用のシャンプーを使用してもいい！？

→皮膚の構造が違うので、犬や猫にヒトのシャンプーを使用することはおすすめできませんまた、動物用のシャンプーでも成分によっては犬には使えるが猫には使用できない、というものもあります

	犬の皮膚	ヒトの皮膚
皮膚の厚さ	被毛部 0.05～0.1mm	0.2mm
汗腺	主にアポクリン腺	主にエクリン腺
毛穴の構造	一つの毛穴から 7～15 本 脂腺や汗腺が付属し複雑な構造	一つの毛穴から 1～3 本 汗腺は独立している
皮膚の pH	平均 7.5	平均 5.5
ターンオーバー	3 週間	4～6 週間



🌸 食事や生活の健康管理

食事は専用フードをメインに

→健康管理に食事のバランスはとても重要です。その子の年齢、活動量、何か病気を持っているならそれにあった食事と適切な量を提供しましょう。つついおやつをあげてしまうことがあるかもしれませんが、なるべくおやつは控えるようにしましょう。特に人の食事や味のついたものは食べ物によっては動物に害をもたらすものもあります。あげないようにしましょう。

ご飯を食べたらデンタルケアを忘れずに

→シニアのわんちゃん・ねこちゃんのほとんどが歯周病を患っているといわれています。重度になれば全身麻酔での抜歯手術や歯石除去が必要になることもあります。そして大抵そういった処置が必要になるのは 10 歳以上の高齢期になってからが多いです。歯周病は単に口の中だけの問題ではありません。心臓病、腎臓病などの全身的な病気との関連も報告されています。毎日数分のデンタルケアが、大切な家族の健康につながるのです。

定期的にしっかり運動

→人間でも耳に痛い話ですが、適度な運動は動物にもとても大切です。運動不足は肥満につながるだけでなく、筋力の低下、退屈による問題行動（無駄吠え、室内でのいたずらなど）も引き起こします。わんちゃんでは犬種によって体格によらず予想以上に運動量を要求する子達もいます（ジャックラッセルテリア、ビーグル、W・コーギー、）。猫ちゃんも一日 10～15 分くらいはおもちゃで遊んであげるといいでしょう。

家の中は実は危険がいっぱい

→異物誤食の発生現場は家の中がほとんどです！まさかこんなものまで……！という事例は日常茶飯事。わんちゃんねこちゃんたちの生活圏は常に生理整頓し、ゴミ箱は入ることの出来ない部屋におく、薬剤は棚の中にしちまう、人のご飯はだしっぱなしにしないなど、常に気を配りましょう。また、フローリングはすべるため、関節の病気を持っていたり、高齢で足腰が弱くなっている子には向きません。絨毯や、滑らないマットなどを設置してあげましょう。

❁気づいて欲しい病気のサイン

いろいろありますが・・・以下の症状が続くようなら全身性の病気が考えられます。
あれ？と思ったら動物病院で診察を。

- 吐いている→消化器の病気、異物の誤食
- 元気が無い→どこかが痛い、不快感、倦怠感がある
- 痩せてきた→全身的な病気による体の消耗の可能性
- 異常に水を飲む・尿量が多い→腎臓や婦人系、内分泌系の病気があるかも
- おしっこが赤い・頻尿である→泌尿器系の病気
- おしっこが一日以上でない→特に雄猫ちゃん！尿道がつまってだせないのかも！
- 下痢をしている→消化器系の病気
- 毛がぬけてきた→皮膚病、内分泌系の病気かも
- 咳をする→呼吸器・循環器の病気かも
- 体にしこりがある→腫瘍かも
- 目をショボショボさせる、目やにが多くなる→眼科の病気
- 口が臭い・出血がある（頬が腫れる）→歯周病のサイン



その他にも、元気、食欲はちゃんとあるか、オシッコや便の状態は大丈夫か、歩き方に問題はないかなどなど……。飼主さんは言葉を話せない家族に代わって症状を説明できる唯一の存在です。様子に変化がないか、みることを毎日の習慣にしましょう。



くみ動物病院

